

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		齊藤 正敏	所 属		工学部 機械システム工学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.30	1.機械材料 I : 講義ノートを配布し、理解度に重きを置く。具体的には全学生が少なくとも1問以上解き、学生自身が解説する問題数と時間を設定する。2.工業所有権: 講義毎に演習を行い、具体例について特許請求範囲を書くことが出来るようにする。 3.複合材料特論: 演習課題を3コマ分用意し、最終目標であるラミナの設計が出来るように指導する。			0.30	1.機械材料 I の演習問題を受講生一人当たり、少なくとも1問解き、その解説を学生がするように、指導した。更に講義への学生の積極的参加を促すため来年度は改善して試みる。2.特許請求範囲について理解し、学生が記述できるようになった。3. 履修学生がいないため開講しなかった。それに代わり、短期交換留学生にFMEAを用いたリスク管理の講義を行った。		
研究	0.30	1. 温度表面相転移に関する2年間の研究成果を欧文誌に掲載されるようにする。 2.Ni-Mo薄膜の原子間相関関数に関する研究成果を欧文誌に投稿できるようにまとめる 3. 科研費獲得のために、量子共鳴電析における水素発生と印加周波数の関係を明らかにする実験を行う			0.35	1. Science, Technology and Education of Microscopy chap11. (2014)1004-1012に掲載された。2. Inter.J. Electro. Sci. 99 (2014)6033 -60426033 -6042に掲載された。3. 投稿できる内容の結果を得たので論文にまとめた。投稿は予算の関係で来年度とする。		
社会貢献	0.20	1.Editorial Boardのメンバーとして三つの欧文誌electrochemistry、corrosion、ISRN materials scienceをサポートする活動、査読、出版物の提言、助言等の仕事を行い3誌の国際的評価向上及び学問の発展に寄与する。 2. 欧文誌の査読依頼を積極的に引き受ける。			0.15	Zeitschrift fuer Naturforschung Aの論文校閲を2回行った。また、科研費審査員を行った。		
管理運営	0.10	研究関連の会議で提言を行う			0.10	研究推進委員会に可能な限り出席して積極的に発言した。		
進路指導	0.10	就職活動や進学について助言や指導を行う。特に4名の卒論生については希望通りの成果がでるように就職・進学に臨むための戦略について面談等で指針の指導を行う。			0.10	卒論生4名の内、2名が九州大学大学院進学、1名が本土企業へ就職、1名が来年度大学受験と進路を決めることができた。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		古川 俊雄	所 属		工学部 機械システム工学科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.40	これまでの授業アンケートを参考に、授業に占める演習の割合を多めにして、学生の理解度が増すように努める。また、学生が興味を持てるように、科目の位置づけや実際例を含めた授業を行う。		0.40	前学期5科目の授業アンケートは5段階評価の3「ふつう」以上が、71.0%、97.2%、86.7%、100%、100%、後学期2科目は87.5%、100%となっており、例年1年生科目「線形代数学」の評価は低いが改善効果もあり、概ね満足のいく授業ができたので目標は達成できた。
研究	0.40	関係する学会講演会等に積極的に参加し、最新の研究成果の知見を得るとともに可能な限り研究発表を行う。 研究成果をまとめて学術誌に投稿し、掲載されることを目指す。		0.40	国内の学術講演会等に積極的に参加して、最新の研究成果の知見を得た。また、機能性材料・構造物の力学に関するアジア会議2014(ACMFMS2014)で研究発表を行い、研究成果はProceedingsに掲載された。Springer社から発行されたEncyclopedia of Thermal Stressesの1章に物体力相似法に関する研究成果が掲載された。以上のことから目標は達成できた。
社会 貢献	0.05	10月10日～13日に奈良市の奈良新公会堂で開催される国際会議(ACMFMS2014)の組織委員会の一つ(International Advisory Committee)のメンバーとして会議の円滑な運営に協力する。 論文校閲依頼があれば積極的に引き受ける。		0.05	機能性材料・構造物の力学に関するアジア会議2014の国際諮問委員会のメンバーとして会議の円滑な運営に協力し、100名以上の参加者を得て成功することができた。沖縄TLOから沖縄県ものづくり産業戦略推進事業検討委員会(8名で構成)委員長を委嘱され、3回の会合で一定の成果を得ることができた。海外から論文校閲依頼があり引き受けた。以上のことから目標は達成できた。
管理 運営	0.05	学科会議、教授会、研究科委員会などで円滑な議事進行に協力する。		0.05	学科会議、教授会、研究科委員会などで円滑な議事進行に協力した。学部将来計画委員会委員として学部改組に取り組んだ。また全学委員会である第3期中期目標・中期計画策定プロジェクトチーム組織見直し具体化タスクフォースメンバーとして工学部の取組み状況などで協力した。以上のことから目標は達成できた。
進路 指導	0.10	大学院修士2年次生・学部4年次生の就職担当として、例えばメーリングリストを活用した進路情報の提供を多くするなどして、できる限り多くの学生の進路が決定するように努める。		0.10	今年度の就職担当として学生の進路決定に携わった。推薦を希望する学生が少なく、自由応募の相談に直接来る学生も少なかったが、メーリングリストを活用して数多くの就職情報を提供した。また直接来校した企業名も提示し、採用意欲の高い企業がわかるように工夫した。単独の会社説明会も多くなるように努めた結果、景気も回復基調にあり、進路決定率は昨年より向上した。以上のことから目標は達成できた。
	0.00			0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	真壁 朝敏		所 属	工学部 機械システム工学科		職 名	教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果			
教育	0.30	大学院博士前期および後学期の院生の指導を行う。そして、博士後期の最終年度の院生が今年度修了できるように指導する。また、学部学生の講義にあたっては、前年度、板書が速いとの指摘があったので、このことも注意しながら、講義を行い、改善する。		0.30	大学院博士後期の院生1名が修了し他の1名が3月20日で修了予定となっている。その内の1名は学長賞を受賞した。また、講義を改善する努力を行っており、不可の学生を減らすように継続的に努力している。博士前期・後期の院生を指導し論文投稿等を行った。			
研究	0.25	1編以上の論文を国内あるいは国外の論文集または学術誌に投稿する。また、国際会議等でも発表をするように心がける。他大学の研究者との共同研究を行うように努力する。そして、最近話題になっている、自然エネルギーに関係した研究について実験的な研究をすることを目標にする。		0.25	国内外の学術論文に複数の論文が掲載された。韓国で発表した講演論文の一つでポスター賞を受賞した。九州大学応用力学研究所の新川教授との共同研究成果が国際誌に掲載される。風車用複合材料の疲労および洋上発電に関連した腐食疲労試験の成果をまとめ、研究報告ができる段階に達した。			
社会貢献	0.25	日本機械学会等の国内の学会に協力して委員を務める。また、本学産学官連携機構に協力し、県の団体が海洋資源関係の事業を推進することを支援する。県内での技術講習会講師等に対して協力を行う。		0.25	日本機械学会九州支部商議員、日本材料学会代表議員、日本複合材料学会評議員を務め講演会の開催、地区事業等に協力した。県の海洋資源に関する調査に協力し国内・海外での調査活動および講習会の支援を行って資料作成に協力した。また、高圧ガス技術甲種試験および疲労講習会の講師を務めた。			
管理運営	0.19	機械システム工学専攻の専攻主任として、関連業務を遂行していく。また、参加している委員会の活動および学科会議に積極的に参加し、意見を述べる。教授会、大学院研究会にも積極的に参加する。		0.19	機械システム工学専攻主任として1年間、関連業務を遂行した。また、学科会議、教授会、施設運営委員会等に積極的に参加し意見を述べた。島嶼防災センター副センター長を務め、任務を遂行した。			
進路指導	0.01	配属された大学院生および学部学生の就職に関して助力する。		0.01	配属された大学院生および学部学生の就職に関して助力している。			
	0.00			0.00				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠を広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		宮崎 達二郎	所 属		工学部・機械システム工学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果			
教育	0.35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価アンケート等の指摘, 自らの発意に基づく授業の改善を試みる.</li> <li>・学生実験においてTAを有効に活用し, 教育効果の改善を試みる.</li> </ul>		0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習問題を増やし, 学生の理解度が向上するように心がけた.</li> <li>・TAには, 準備や片付けだけでなく, 実際の実験にも参加してもらい, 受講学生が気軽に質問できるよう工夫してみた.</li> </ul>			
研究	0.35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学会誌への複数編の論文投稿を目指す.</li> <li>・複数回の学会での研究発表を目指す.</li> </ul>		0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料力学カンファレンス2014(日本機械学会)で1件の発表を行った.</li> <li>・「自動車技術会論文集」に1本の論文(第1著者として執筆したのも)が掲載となった.</li> <li>・FFW2014で1件の発表を行った.</li> </ul>			
社会貢献	0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパス等で, 研究成果を紹介する.</li> </ul>		0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・韓国海洋大学校を訪れた際に行った研究紹介の手伝いをした.</li> </ul>			
管理運営	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年次編入, 大学院等の入試業務に携わる.</li> </ul>		0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年次編入で材料力学の問題の作成, 採点を行った.</li> <li>・大学院入試で材料力学の問題点検を行った.</li> </ul>			
進路指導	0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オフィスアワー, 年次別懇談会等を利用し, 進学指導, 就職支援を行</li> </ul>		0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オフィスアワーや空き時間等を利用し, 進路相談に対応した.</li> </ul>			
	0.00			0.00				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください.</li> <li>・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください.</li> <li>・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください.</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください.</li> </ul>			
<p>※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。</p>				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		藤川 正毅	所 属		工学部 機械システム工学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.35	学生が積極的に参加・発言できるような授業ができるように努力する。具体的には、授業と実験の目的やその工業的価値などを明確にして、学生が興味をもてる様に努力する。また、学生の理解度を確認しながら、お互いにコミュニケーションをとれるような授業環境を心がける		0.35	授業アンケートより学生の理解と評価が好評だった。授業や実験内容が社会でどのように役に立つのかをできるだけ含めるようにスライドや資料を工夫した。また講義の重要個所を認識してもらうため配布資料を穴埋め形式で作成するなどの工夫をした。		
研究	0.40	学会誌への複数の論文投稿を目標に研究を進める。また、外部資金や共同研究の獲得を目指す。		0.40	国内外に論文を投稿し受理された(ジャーナル3編, 国内1編)。共同研究2件, 受託研究1件を獲得した。		
社会貢献	0.10	研究に関する学科活動や勉強会に参加する		0.10	機械の日のイベントに参加して、子どもたちと物づくり体験を行った(速く走るミニ四駆づくり)。また、ゴム協会力学性質分科会の勉強会に講師として参加した。		
管理運営	0.05	教授会、学科会議に積極的に参加する。また、学科内および学部内等の各種委員会に参加し協力する。		0.05	今年度は施設環境委員として活動した。		
進路指導	0.10	日ごろから学生の希望する進路や興味などを聞くようにし、状況を把握・そして適切に指導できるように準備を心がける。また、履歴書の書き方や面接など助言をする。大学院進学を考えている学生には、そのメリットや研究の興味などを可能な限り伝えられるように資料作成・面談を行う。		0.10	学生からの進路相談、履歴書の書き方などを指導した。またできるだけ、こちらから積極的に話しかけるように心がけた。		
	0.00			0.00			
計	1.00			1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		倉田 耕治	所 属		工学部 機械システム工学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.30	機械力学(1組, 2組, 夜間, 1組と2組は必修), 信号処理工学, 工業数学IIIの授業を行う。授業の最後の二, 三回で集中的に演習を行うことで, 成績と単位取得率の向上を図る。			0.30	目標設定に挙げた授業を担当した。卒業研究を指導した学生の1人が機械学会九州学生会卒業研究発表講演会で発表した。		
研究	0.20	大学院生, 他大学(東京工業大学, 宮崎大学等)との共同研究をおこなう。学会, 研究会発表または論文発表2~3件程度。			0.30	宮崎大学, 岡山理科大学との共同研究を行った。国際学会発表1件, 全国規模の国内研究会発表1回(3月中の予定)。他大学でセミナー講演1回(3月中の予定)。		
社会貢献	0.10	電子情報通信学会論文誌の査読委員を務める。依頼があれば学会, 研究会の座長, 顕彰評価委員などをおこなう。			0.00	電子情報通信学会論文誌の査読は今年度は依頼がなかった。		
管理運営	0.30	JABEEシステム委員会の委員長を務める。ハラスメント防止対策委員会の工学部代表委員を務める。			0.30	JABEEシステム委員会の委員長を務めた。ハラスメント防止対策委員会の工学部代表委員を務めた。パワーハラスメント事件1件の調査委員会の委員長を拝命し, 継続中。		
進路指導	0.10	卒論指導の学生の就職活動をサポートする。			0.10	卒業研究を指導した学生で夏までは就職を希望していた2人が, 博士前期課程進学に志望を変更し, 二次募集で合格した。もう1人の卒業生は土木コースの博士前期課程に合格した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。</li> <li>・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		柴田 信一		所 属		工学部 機械システム工学科		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果				
教育	0.30	機械基礎工学, 材料加工学I, 高分子合成論, 機械システム設計製図I, 機械システム工学実験I,IIおよび大学院博士前期課程において講義を行う。				0.30	機械基礎工学, 材料加工学I, 高分子合成論, 機械システム設計製図I, 機械システム工学実験I,IIおよび大学院博士前期課程において科学者の倫理に関する講義を行った。大学院生を指導し、成形加工学会秋季大会で2件発表した。科学者の倫理では取りまとめを行い、科目の必修化を推進し、シラバスを作成した。				
研究	0.40	国際的学術雑誌にて研究論文を発表する。共同研究で外部資金を得る。				0.40	Bioresourcesに主著者で投稿し、ピアレビューを通過、掲載された。インドネシア・アンダラス大学で植物繊維複合材料に関する基調講演を行った。共同研究では三重金属工業株式会社、受託研究では大阪ガス株式会社、奨学寄附金では三重金属工業株式会社から外部資金を受けた。				
社会貢献	0.15	研究の実用化を推進する。特許出願を行う。				0.15	三重金属工業株式会社を通して、株式会社沖縄三重を設立し、乳酸発酵の応用研究の実用化を推進した。東海テック株式会社を通して、米軍岩国航空基地の燃料配管漏洩事故の分析を行い、報告書を提出した。株式会社沖縄ウコン堂の糖質低減ウコンの開発について相談を受け、実用化に向けて実験を開始し、昼間報告を行った。				
管理運営	0.10	機械工作工場長, 教育委員, JABEEのFD委員長として活動を行う。				0.10	機械工作工場長として、工場設備維持、韃祭り、予算に関わる活動を行った。教育委員として、委員会に、JABEEのFD委員長として授業改善アンケートの取りまとめを行った。				
進路指導	0.05	学生の就職活動および大学院進学を支援する活動を行う。				0.05	研究室の大学院生の就職指導を行い、株式会社沖縄三重に就職が決定した。研究室の4年次の指導を行い、博士前期課程に進学することが決定した。研究室の4年次の就職活動を支援するために、企業紹介を行った。				
	0.00					0.00					
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>				1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		近藤 了嗣	所 属		工学部 機械システム工学科	職 名		准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウエイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.40	講義に関して、専任科目では授業評価アンケートで本学教育目標にある「普通」以上7割達成を目指して継続的改善に努める。共担科目では「普通」以上7割達成に貢献できるように努める。証拠資料はJABEE保存資料とする。なお、評価者の評価結果が公開されたH23年度から毎年、目標を達成すると共に評価Aを戴いており、本目標設定は妥当と考えられる。			0.40	専任科目、共担科目共に「普通」以上7割を達成した。前学期専任科目の機械システム設計製図では、エンジニアデザイン能力の養成のため、課題の自己設定、自己解決、自己評価、これらのグループワークを実施した。CAD演習に関してFreeの鍋CADの操作性に関する検討を行い授業環境改善に取り組んだ。大学院の講義として機械基礎工学特論Ⅰ、Ⅱを前、後学期開講して提供科目の充実に貢献した。専任科目では「普通」以上、10割を達成した。今年度の目標以上を達成した。		
研究	0.30	現在、遂行中の研究課題に関する成果発表を目標とする。なお、研究進捗状況や研究予算、原稿執筆から掲載までに要する時間などを考慮して、年間1件程度を目標とする。証拠資料は業績とする。なお、評価者の評価結果が公開されたH23年から毎年、目標を達成すると共に評価Aを戴いており、本目標設定は妥当と考えられる。			0.20	研究課題「金属多重結晶の疲労破壊と転位の運動・蓄積のマルチスケール解析」に関して他大学の研究者と共同研究を推進した。これらの成果に関して日本機械学会2013年年次大会にて「繰り返し変形における振幅が転位パターン形成に及ぼす影響」と題して講演発表した。旭川高専の助教と共著「双結晶モデルに生じるGN転位パターンと密度の粒界傾斜依存性」を投稿・掲載決定通知を戴き、今年度の目標以上を達成した。		
社会貢献	0.05	技術相談等、専門知識を活かして社会貢献に努める。証拠資料は関連資料とする。実際に技術相談を受ける頻度は稀なため、業務ウエイトは0.05とするが、H25年度は評価Aを戴いており、本目標設定は妥当と考えられる。			0.05	島嶼防災研究センターの併任准教授を務めると共に防災研究課題の遂行に取り組み、研究を通して地域貢献に務めた。なお、研究成果は日本機械学会2013年年次大会にて「繰り返し変形における振幅が転位パターン形成に及ぼす影響」、天野ノーベル賞受賞記念・第8回防災・環境シンポジウムにて「疲労破壊現象と転位の運動・蓄積のマルチスケール解析」と題して講演発表した。また、大学COC事業「ちゅう島の未来を創る知の津梁(かけ橋)」の「県内物作りに携わる人材の学び直し及び技術の向上」をテーマとして、1月26-27日に石垣島、2月4-5日に宮古島のニーズ調査を行い当初の目標以上に貢献できた。		
管理運営	0.20	学科では広報委員会委員、学部では社会連携委員会委員を務める。証拠資料は関連資料とする。なお、評価者の評価結果が公開されたH23年から毎年、目標を達成すると共に評価Aを戴いており、本目標設定は妥当と考えられる。			0.30	学科では広報委員会委員を務め、学部では社会連携委員会委員を務め、8月の工学部後援会総会以後、工学部後援会・新任理事を務めた。今年から就職説明会の代わりに企業セミナーを開催した。また、2015年度 第三年次特別入学者選抜試験 問題作成委員、問題点検委員を担当した。2015年度推薦入試試験監督、面接担当した。2015年度前期試験試験監督を担当した。本年度、当初の目標通り、管理運営に貢献できた。		
進路指導	0.05	年次指導と卒業研究指導の担当学生に対して教育研究指導の一環として行う。学生が進路を決定するまでの業務であるため、業務ウエイトは0.05とするが、H25年度は評価Aを戴いており、本目標設定は妥当と考えられる。			0.05	卒業研究の担当学生4名に対して、定期的に進路相談の時間を用意した。結果、重過年度生を含む4名とも進路が決まり、当初の目標を達成した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	



(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		水口 尚	所 属		工学部 機械システム工学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果			
教育	0.30	学生とのコミュニケーションの機会を多く取るように努力する。 担当する学生実験、基礎製図の補足資料などを準備し、学生の理解を高める努力を行う。		0.30	オフィスアワーの時間帯やメールアドレスを居室のドアに掲示した。 学生実験(前期:夜間主コース1テーマ、後期:昼夜1テーマずつ)と基礎製図(昼:1組)での補足説明の資料を作成・配布し、説明を行った。また、基礎製図(1組)では、学生からの授業改善アンケートの総合評価でふつう以上が92.1%であった。			
研究	0.60	卒業研究や修士の学生の研究指導を行い、学会などの学外での発表に積極的に参加してもらう。 研究成果をまとめ学術講演会に参加し、学術論文を投稿する。		0.60	卒業研究では3名、修士学生を2名を指導した。沖縄高専との合同研究発表会にて指導している学部学生3名と修士学生1名が発表を行った。 研究成果をまとめ、国内学会(7件、内1件は指導している修士学生が発表)、国際学会(1件)で発表し、1編の学術論文が掲載(1編投稿中)された。			
社会貢献	0.03	化学工学会の沖縄化学装置懇話会の活動を通して地域産業への貢献を行う。 日本海水学会第65年会(6/19-20)の実行委員を担当する。		0.03	沖縄化学装置懇話会の庶務幹事として活動を行った。 日本海水学会第65年会(6/19-20)や日本伝熱学会九州支部主催の九州伝熱セミナー(11/28-29)の現地実行委員の一人として尽力した。			
管理運営	0.03	学科内の会計委員と志願者増委員を担当する。		0.03	会計委員として学科内の会計に関する実務を担当した。志願者増委員会の一員として学科広報などに尽力した。 また、他の全学的な委員会(動物実験委員会等)も担当した。			
進路指導	0.04	指導担当の3年次昼間主コース(1組)の学生の履修指導を行う。 配属された卒業研究の学生に就職・進学指導を行う。		0.04	3年次昼間主コース(1組)の学生に前後学期の年次別懇談会を通して履修指導を行った。卒業研究では3名(就職2名、進学1名)を担当した。			
	0.00			0.00				
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		宮田 龍太	所 属		工学部 機械システム工学科
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.35	情報科学演習(1年次1組), 機械システム工学実験I, II(3年次1組, 夜間)の制御系テーマを担当する。卒研究生の研究指導を行う。		0.30	情報科学演習(1年次1組), 機械システム工学実験I, II(3年次1-3組)の制御系テーマの一部を担当した。 また, 卒研究生3名の研究指導を行い, 全員の審査通過に至った。 さらに, 制御系の有志学生を対象に, IT系の国家資格である「基本情報技術者試験」対策ゼミを行った。
研究	0.35	他大学(東京工業大学, 富山大学)との共同研究を行う。また, 研究成果をまとめて学術雑誌への論文投稿(1~2件)および研究会での発表(1~2件)をめざす。さらに, 科学研究費補助金の獲得をめざす。		0.30	他大学(東京工業大学, 富山大学)と共同研究を行った成果をまとめ, 研究会にて発表を計3件行った。 さらに, これまでの成果を一つの論文としてまとめ, 物理学の専門雑誌に投稿した(現在, 再投稿中)。 科研費の申請については, 来年度に見送った。
社会貢献	0.10	オープンキャンパス運営委員など, 学科で企画された学外者を対象にしたイベントに積極的に参加・協力する。		0.10	オープンキャンパス運営委員会の一員として, オープンキャンパスの運営や当日の司会を行い, 高校生に本学科で学ぶ魅力を伝えた。 また, 2015/2/28に付属小学校にて「自分でゲームを作ってみようプログラミングのすすめ」と題して, 小学4年生以上の親子20組を対象に, 教育学部の日熊隆則准教授らとともに出前授業を行った。
管理運営	0.05	4年次指導教員の1人として, 学期毎の懇談会や卒業研究のとりまとめといった年次指導を行う。		0.25	4年次指導教員として, 卒業判定や大学推薦入試面接官, 大学院入学試験監督等の業務を行った。 また, 平成27年度大学入試センター試験では監督補助者として試験監督業務に携わった。さらに, 選挙管理委員として, 学部長・評議員・学科長選挙の管理・運営に携わった。
進路指導	0.15	年次指導の4年次学生について就職・進学相談を行う。とくに研究室の卒研配属生が進路を確定できるように支援する。		0.05	年次指導の4年次学生について, 就職・進学相談を行った。 とくに, 卒研配属生は全員大学院への進学を希望したため, 試験対策についてのアドバイスを施した。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。 ・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		屋我 実	所 属		工学部 機械システム工学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.25	機械システム工学科のJABBEプログラムの教育目標に即した講義(流体力学I1組と圧縮性流体力学)を行う。 成績の評価基準を明らかにして、希望する学生に公にする。またいつでも問い合わせができるように、対応を考える。 指導大学院生に国際学会で学会発表をさせる			0.20	機械システム工学科のJABBEプログラムの教育目標に即した講義(流体力学I1組と圧縮性流体力学)を行った。また指導大学院生2名を国際学会で発表させ、そのうちの1名は、共同研究として韓国へ派遣することができた。		
研究	0.25	国際学会への参加および国際誌への投稿・掲載を目指す。 また特許登録されたテーマの研究を積極的に推進する。 また外部資金に向けた申請を行う。去年度立ち上げた学科内の熱流体シミュレーション研究会の活動をさらに活性化させるための検討を行う。			0.25	大学シーズとして、企業と共同研究を開始する事が決まった。さらに特許申請のための審査委員会で特許を説明し、特許取得に向けて検討することができた。さらに第12回の熱流体系の国際学会において、実行委員として開催に寄与した。		
社会貢献	0.10	オープンキャンパスを含め学科で企画された学外者対象のイベントに積極的に参加・協力する。また学内外の団体との交流を深め産学の連携強化に努める。			0.20	工連と連携し工学部後援会の総会を開催した。さらに学生に対する就職説明会を開催した。また、地域への貢献として、物づくり企業に所属する技術者に、「水撃に関する技術セミナー」を開催した。		
管理運営	0.35	産学連携・工学部交流促進・技術部担当副学部長として学部運営に貢献する			0.30	産学連携・工学部交流促進・技術部担当副学部長として、COCのプロジェクトを学部で実施した。また大学理事を講師としたゆんたく会の開催や、工学部ニュースを16号発行し学部内での情報交換の促進に寄与した。		
進路指導	0.05	4年次の指導教員として、履修相談 将来の職業と受講科目との関連についての説明を行い、進学・就職の相談を行う。			0.05	4年次の指導教員として、履修相談 将来の職業と受講科目との関連についての説明を行い、進学・就職の相談を行った。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		瀬名波 出	所 属		工学部 機械システム工学科
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>熱機関工学: 昨年に引き続き、教科書以外の資料、動画利用による視覚的に確認、理解できる工夫を改良する。単位取得率を向上させる。</li> <li>熱力学II: 具体的なイラスト等を用い、よりわかりやすい授業を行い履修率を向上させる。アンケート要望の多かった演習を増やす。単位取得率を向上させる。</li> <li>博士、修士学生の国内学会・国際学会発表指導</li> <li>TA,RAの有効活用化を図ると同時に担当学生の資質向上につなげる。</li> </ul>		0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>熱機関工学: 教科書以外の資料としてエンジン動作アニメーション動画利用による視覚的に確認、理解できる工夫を行った環境問題(二酸化炭素排出削減)や電気自動車なども絡めて熱機関の今後の動向などについても講義した</li> <li>熱力学II: 2年次1組、2組に加えて過年度生対象の3組を開講した。また単元毎に複数回に分けて試験をすることで理解を促した。アンケート結果も好評だった。履修率も格段に向上した</li> <li>応用熱力学II: 複数名の対象学生にマンツーマン形式で演習指導した</li> <li>機械工学概論: 熱力学担当</li> <li>JICA講義担当(3年目)</li> <li>2名の招聘教授による集中講義、特別講演を開催(静岡大・中山頭教授、三重大・廣田真史教授)</li> <li>卒業研究(3テーマ: 主指導3名)</li> <li>修士(指導教員3名、副査4名) 研究指導を行った</li> <li>修士・博士学生の学会発表指導: 計10件(国際学会3件、国内学会7件)</li> <li>指導学生の表彰: 日本海水学会ポスター黒潮賞(技術交流賞)、日本機械学会三浦賞(2年連続受賞)、琉球大学理工学研究科長賞(2年連続受賞)</li> <li>年度目標は十分に達成したと考える</li> </ul>
研究	0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係する学会等において積極的に研究発表を行う。</li> <li>成果をまとめて学会誌へ論文投稿し、掲載されることを目指す。</li> <li>昨年度に引き続き特別研究PJを推進・共同研究の促進する。(農学部、他大学)</li> <li>産官学協力型研究PJ化を進める。(外部資金の獲得を目指す)</li> <li>研究成果の広報活動を行う。</li> </ul>		0.35	<ul style="list-style-type: none"> <li>査読付き論文投稿5件(採択3件、投稿中2件)</li> <li>学会発表12件(国内学会発表8件、国際学会発表4件)、国際WS発表1件(日本-デンマーク合同WS: 広島大、東大、名古屋大、東北大、岐阜大、琉球大連携)</li> <li>受賞: 日本海水学会ポスター黒潮賞(技術交流賞)、工学部研究奨励賞</li> <li>H26年度外部資金等4件応募(うち3件受託: 新規1件、継続2件)</li> <li>研究成果の主な広報活動6件: 1) 工学部広報15号、2) 県庁農水部にて講演、3) 宮崎西高付属中学校にて招待講演、4) ベネッセ・進研ゼミ「高校講座高2受験チャレンジ小論文10月号テキスト」、5) NHK「まるごと知りたい! AtoZ 今年も猛暑? どうなってるの!? 異常気象」で紹介(7/26) 6) バイオマスワークショップ開催(3/23予定)</li> <li>年度目標は達成したと考える</li> </ul>
社会貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本機械学会熱工学部門運営委員</li> <li>日本伝熱学会編集出版部会委員</li> <li>産業支援の一つとして研究成果の応用方法を公開していく。</li> </ul>		0.15	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本機械学会熱工学部門運営委員として2回会議に参加</li> <li>日本伝熱学会編集出版部会委員として3回の学会誌校正担当。うち1回は主担当として特集号を編集</li> <li>論文査読3件(国際誌2件、国際学会1件)</li> <li>研究成果について学外から産業支援に関する応用方法の講演(沖縄県庁農水部)、特別講演依頼(宮崎西高付属中)、民間企業(北大ベンチャー) 研究開発アドバイス(GELデザイン)</li> <li>年度目標は十分に達成したと考える</li> </ul>
管理運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>H26年度工学部研究推進委員</li> </ul>		0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>H26年度工学部研究推進委員</li> <li>H26年度とんがり研究PJ委員: 全学の委員として任命を受け、主にURA設立準備を行った</li> <li>学科内の学部改組WG委員として非常に多くの作業に積極的に関わった</li> <li>年度目標は十分に達成したと考える</li> </ul>
進路指導	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年次3組(夜間主)指導教員として、年次別懇談会、レク、研修および進路指導を行う。</li> <li>研究室学生については、進学や就職の情報を積極的に与え、学生の相談に対応する。</li> </ul>		0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年次3組(夜間主)指導教員として、年次別懇談会、合宿研修・レクおよび進路指導を行った</li> <li>3年次3組(夜間主)指導教員として、学生間トラブル(ハラスメント)問題に対応した</li> <li>研究室学生について2名(他大学からの希望1名含む)を本学大学院前期課程進学指導した</li> <li>担当した院生、学部生は皆、就職、進学が決定した</li> <li>年度目標は達成したものと考える。</li> </ul>
	0.00			0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		照屋 功	所 属		工学部 機械システム工学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生の理解を確認し、学生が「わかった」の実感を持つ授業を目指し、授業評価アンケートの総合評価「ふつう」以上が75%を超えるよう努める。</li> <li>怠惰欠席防止および学生からの質問や意見取得促進を目的とした欠席通知メールを授業欠席者へ送るシステムをTAとともに構築し、実行する。</li> </ul>			0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中再三学生の理解を確認するよう努め、学生から質問が出るようになった。アンケートの総合評価は「ふつう」以上が90%以上と高い評価を得た。</li> <li>毎回授業後に欠席学生へ出席を促すメールを送ることにより「声かけ」をおこなった。欠席学生から反省メールなどもあり、概ね好評であった。</li> <li>「機械設計技術者試験」対策講座講師として指導し学科合格率を昨年より増加。</li> </ul>		
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>学会講演会等への参加および報告発表。</li> <li>ターボ機械協会沖縄地区委員会の幹事としての運営。</li> </ul>			0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本機械学会講演会に参加し、研究発表した。</li> <li>講演論文3件。</li> <li>ターボ機械協会沖縄地区委員会の幹事としてターボ機械への関心向上にむけた地区活動をおこなった。</li> </ul>		
社会貢献	0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域、社会等へ向けた学科や研究内容紹介。</li> <li>工学部後援会の理事として県内外の工業会との連携。</li> </ul>			0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>学科HPなどで研究内容、設備、学科の紹介をした。</li> <li>工学部後援会理事として工学部の情報を発信し、後援会総会の運営などから後援会や工業連合会の会員企業の方々と交流を持った。</li> <li>「機械ののちびっこエンジニア体験教室」を実施し、学部学科PRをした。</li> </ul>		
管理運営	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>工学部後援会理事としての活動。</li> <li>工学部交通指導委員会での活動。</li> <li>大学院や特別編入等の入試問題作成、その他の入試関連業務。</li> <li>機械学会九州支部沖縄地区会の九州学生会顧問としての運営。</li> </ul>			0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>工学部後援会理事として就職説明会開催などの後援会活動をおこなった。</li> <li>工学部交通指導委員会での活動(交通対策検討、違法駐車取り締まりなど)。</li> <li>大学院や特別編入等の入試問題作成、その他の入試関連業務をした。</li> <li>学生会顧問としての活動(卒業研究発表講演会引率、顧問会会議参加など)。</li> </ul>		
進路指導	0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>昼間主コース4年次指導教員として学生の就学・進学・就職等の相談(年次別懇談会、その他)。</li> <li>保護者へ学習状況連絡等により保護者も巻き込んだ学習・生活指導。</li> <li>研究室、その他の学生への進路指導。</li> </ul>			0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>昼間主コース4年次指導教員として最終学年学生の就学進学・就職等の相談(年次別懇談会、その他)を特におこない、学生を指導した。</li> <li>学習状況連絡等による年次指導学生保護者も巻き込んだ学習生活指導した。</li> <li>研究室、その他の学生への進路指導をした。</li> </ul>		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		石川 正明	所 属		工学部 機械システム工学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果			
教育	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生実験のレポートの提出状況をよくするため、メール等活用する。</li> <li>情報科学演習では、メール等を活用して、課題の未提出を減らす。</li> <li>講義の欠席数を減らすために、欠席する学生へメールなど、コミュニケーションを取り、指導する。</li> </ul>		0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験レポートの提出状況が悪い学生には、メールで連絡し、提出を促した。</li> <li>情報科学演習では、課題提出等にメールやメールリングリストの活用した。</li> <li>欠席管理システム(機シス運用)の情報を元に、欠席の多い学生に対し、メールでの確認および欠席5回以上の学生には直接面談を実施した。</li> </ul>			
研究	0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際会議、国内会議へ積極的に参加し、研究成果を発表する。</li> </ul>		0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>ISFV16(流れの可視化国際会議,6/24-27)にて、講演発表2件行った。</li> <li>可視化情報学会(新宿, 7/21-22)にて、座長および講演発表を行った。</li> <li>混相流学会講演会(札幌, 8/28-30)にて、座長および講演発表を行った。</li> </ul>			
社会貢献	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本混相流学会における委員会へ参画する。</li> <li>国際会議ISFV2014-OkinawaのLocal committeeとして活動する。</li> </ul>		0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>混相流学会リエゾン委員(混相流計測技術分科会)に参加した。</li> <li>ISFV16国際会議の現地委員として、会場視察やOCVB等との連携した。</li> <li>工学の体験を通して興味を持ってもらうように、「ちびっ子エンジニアリング体験教室」へ参加した。</li> </ul>			
管理運営	0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>オープンキャンパス委員として、主に高校生向けではあるが、学科のPR活動をしっかり行う。</li> </ul>		0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>オープンキャンパスでの学科説明のために、資料作成と全講座のまとめを行い、当日では、多くの参加高校生へ「ウインドカー」や「流れの可視化」をテーマに説明した。</li> </ul>			
進路指導	0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>メールまたはゼミ等を活用し、研究室学生の進路状況を把握するとともに、就職情報の提供を行う。</li> </ul>		0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゼミ等で就職状況の確認に努め、院への進学を勧めた。</li> </ul>			
	0.00			0.00				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		松田 昇一		所 属		工学部 機械システム工学科		職 名		准教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果				
教育	0.30	学生から積極的に意見を聞き、授業を改善する。 研究室の4年生を対象として伝熱ゼミを行う。 各卒業研究、修論テーマに対する英語論文ゼミおよび進捗ゼミを行う。				0.30	学生から積極的に意見を聞き、授業を改善する。 研究室の4年生を対象として伝熱ゼミを行った。 各卒業研究3テーマ(4人)、修論4テーマ(4人)に対してそ英語論文ゼミおよび進捗ゼミを週一回程度行った。				
研究	0.40	学会誌へ投稿(1~2件)を目指す。 国内発表(2~3件)を目指す。 国際学会発表(1件)を目指す。 科学研究費補助金(H25~27年度、基盤C)対象の研究を精力的に行う。 大阪大学接合科学研究所との共同研究を行う。				0.40	学会誌へ1件投稿(2015年3月5日)した。 国内学会で2件発表した。 国際学会で3件発表した。 科学研究費補助金(H25~27年度、基盤C)対象の研究を精力的に行った 大阪大学接合科学研究所との溶融池磁気制御溶接に関する共同研究を行った。 佐賀大学海洋エネルギー研究センターと熱交換器に関する共同研究を行った。 川崎重工とアブレーターに関する共同研究を行った。				
社会貢献	0.10	学外の行事に参加する。 溶接学会の若手の会委員、教育委員として社会貢献に努める。				0.10	機械の日イベントの「ちびっ子エンジニアリング体験教室」の企画・運営をした。 溶接学会の若手の会委員、教育委員として学会の運営や社会貢献に努めた。				
管理運営	0.10	レク委員として教職員の方々の交流促進に努める。				0.10	レク委員として工学部忘年会および機械システム工学科の新年会の企画補助を行った。				
進路指導	0.10	学生が就職や進学相談しやすい環境を作る。 3年生の指導教員として、修学サポートをする。 研究室学生の履歴書の書き方や面接の指導をする。				0.10	学生が就職や進学相談を行った。 3年生の指導教員として、修学サポートをした。 研究室学生の履歴書の書き方や面接の指導をした。				
	0.00					0.00					
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。				1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			